【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成22年8月12日(2010.8.12)

【公表番号】特表2007-516015(P2007-516015A)
【公表日】平成19年6月21日(2007.6.21)
【年通号数】公開・登録公報2007-023
【出願番号】特願2006-533308(P2006-533308)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｍ　11/04　(2006.01)
Ｆ２４Ｊ　 1/00　(2006.01)
Ｃ０６Ｂ　33/06　(2006.01)
Ｃ０６Ｂ　45/08　(2006.01)
Ｃ０６Ｂ　45/10　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/72　(2006.01)
Ｃ０６Ｂ　33/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｍ　11/04　３００Ａ
Ｆ２４Ｊ　 1/02
Ｃ０６Ｂ　33/06
Ｃ０６Ｂ　45/08
Ｃ０６Ｂ　45/10
Ａ６１Ｋ　45/00
Ａ６１Ｋ　 9/72
Ｃ０６Ｂ　33/00

【誤訳訂正書】
【提出日】平成22年6月17日(2010.6.17)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７０】
[0095]固体燃料の点火時に、発熱酸化還元反応は、短時間にかなりの量のエネルギーを生成し、例えば、ある実施形態では１秒未満、ある実施形態では５００ミリ秒未満、および、ある実施形態では２５０ミリ秒未満等である。発熱反応の例として、電気化学反応および金属酸化還元反応が挙げられる。閉鎖加熱ユニットに使用されるときには、反応体の量および反応条件を最小限にすることによって、反応を制御することができるが、結果として、熱の解放が遅くなり、且つ／または、穏やかな温度上昇になることがある。しかし、ある用途では、１秒以内または１秒より短い時間内に２００℃を超える温度に基板を急速に加熱することが有用でありうる。このような急速で強烈な熱パルスは、医薬組成物を気化させ、エアロゾルを生成するのに有用でありうる。急速で強烈な熱パルスは、発熱酸化還元反応を使用して、特に、金属および金属含有酸化剤を有するテルミット反応を使用して、生成することができる。熱の急速な生成に伴って、高並進エネルギーでガス状生成物および未反応の反応体が急速に生成される。エンクロージャ内に封止されるときには、発熱酸化還元反応は、圧力を大幅に増加することができる。